## 音楽の都ウィーンから新時代の名門オーケストラが来日！

# ウィーン・トーンキュンストラー管弦楽団

### 首席指揮者：クリスチャン・ヤルヴィ

©Pavel Antonov

クリスチャン・ヤルヴィ

### ルイジからクリスチャンへ栄光のタクトが手渡され…

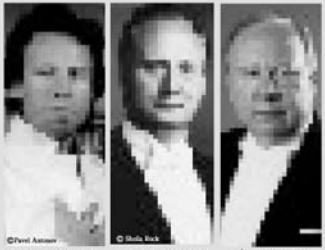
ウィーンの名門オーケストラといえば、ウィーン・フィルやウィーン響のイメージが先行しがち。しかし、新時代の名門オーケストラとして本場の音楽ファンに親しまれているのが、このウィーン・トーンキュンストラー管弦楽団です。

現在、ドレスデン国立歌劇場音楽総監督とウィーン交響楽団の首席指揮者を兼任しているファビオ・ルイジが94年～2000年にこのオーケストラのシェフを務めていましたが、その6年間に、“ルイジ効果”でトーンキュンストラー管弦楽団は一大ブームを巻き起こしました。音楽の都ウィーンで100年以上の伝統を誇るこのオーケストラは、ルイジの素晴らしい手腕により熟成し、2003年からクリスチャン・ヤルヴィに受け継がれることになったのです。

### そのDNAには指揮者の才能が組み込まれて…

クリスチャン・ヤルヴィは、ネーメ・ヤルヴィの次男であり、パーヴォ・ヤルヴィの弟というヤルヴィ一家の寵児。ヤルヴィ一家を少し説明すると、父ネーメは1982年、スウェーデン国立エーテボリ交響楽団の首席指揮者に就任するやいなや、世界有数の実力を持つオーケストラにまで高め、エーテボリ交響楽団の名をより世界に印象づけた指揮者です。

また、異母兄弟であるパーヴォの活躍は言うまでもないのですが、現在、フランクフルト放送交響楽団、ドイツ・カンマーフィル・ブレーメン、シンシナティ響を兼任し、それぞれのオーケストラから独自の音色を引き出し、魅力たっぷりの演奏で確実に成果をあげています。さらに、2010年からはパリ管弦楽団の音楽監督就任が決まっているという、引く手あまたの指揮者です。




クリスチャン・ヤルヴィ　パーヴォ・ヤルヴィ　ネーメ・ヤルヴィ

そのように、DNAに指揮者としての要素が組み込まれているクリスチャンは、1972年エストニアに生まれましたが、幼少の頃家族とともにニューヨークに移り住み、マンハッタン音楽学校にてピアノと指揮を学びます。93年にニューヨークで「アプソリュート・アンサンブル」を創設、音楽監督を務めています。そこで、鍛え上げられた鮮烈な演奏手腕をもって、ルイジから渡されたトーンキュンストラー管弦楽団のシェフを2004年から務めています。

### 楽団員のモチベーションを高めるクリスチャン

「トーンキュンストラー」とは「音の芸術家たち」という意味ですが、オーケストラから“化学変化”にも近いすばらしい音色を引き出せると言われるクリスチャンからつむぎ出される爽やかな音楽と、より充実したレパートリーによって、今やウィーンのうるさい音楽ファンをうならせているのです。今回演奏する名曲中の名曲も、クリスチャンの手腕により新鮮な印象が与えられるでしょう。そして、何よりもお伝えしたいのは、クリスチャンの就任より楽団員のモチベーションが極めて高くなり、やる気いっぱいで楽しそうに演奏しているということです。

そんなクリスチャン・ヤルヴィとトーンキュンストラー管弦楽団のコンビですから、古き伝統とともに、新鮮な魅力あふれる演奏を聴かせてくれることでしょう。

### ジャパン・アーツ主催公演

グリーグやシベリウスなど北欧の2大協奏曲を、チャイコフスキー・コンクールの覇者であり、日本を代表する女若手ソリストが熱演！

**10月4日(土)14時 横浜みなとみらいホール**

グリーグ：「ペール・ギュント」第1組曲
ピアノ協奏曲（ピアノ：上原彩子）
シベリウス：恋人ワルツ
ヴァイオリン協奏曲（ヴァイオリン：川久保賜紀）

クリスチャンとトーンキュンストラーの実力を発揮する2人シフトだけではない、楽しめる豪華プログラム。

**10月8日(水)19時 東京スペシャル・コンサートホール**

上原彩子のグリーグ協奏曲を楽しめる豪華プログラム。

ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」
グリーグ：ピアノ協奏曲（ピアノ：上原彩子）
ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」

●席料：
S¥15,000　A¥11,000　B¥8,000
S¥6,000　D¥4,000
○夢倶楽部会員
S¥13,000　A¥10,000　B¥7,200
S¥5,400　D¥3,600

特別協賛：キユーピー株式会社